

2 種のアブラバチを利用した イチゴのアブラムシ防除

イチゴの重要害虫であるアブラムシの天敵としてコレマンアブラバチが市販されていますが、防除可能なアブラムシがワタアブラムシ等数種に限られることが欠点でした。そこで、農研機構中央農業研究センター、宮城県、栃木県、福岡県、大分県、アグリ総研が共同で、防除可能なアブラムシの種類が多い土着天敵「ナケルクロアブラバチ」を併用することにより、コレマンアブラバチのみでは防除できなかったアブラムシ類に対する防除技術を開発しました。今回は栃木県農業試験場でのイチゴのアブラムシ類に対する2種のアブラバチのマミー製剤を用いた試験の概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. チューリップヒゲナガアブラムシに対する2種のアブラバチ（ナケルクロアブラバチとコレマンアブラバチ）処理区では、密度指数は6回目放飼15日後（12/2）14.6、21日後（12/8）14.5と低く、防除効果が認められました（表1）。
2. ワタアブラムシに対する2種のアブラバチ処理区では、密度指数は6回目放飼1日後（4/30）8.4、7日後（5/7）10.0、14日後（5/14）18.4と低く、防除効果が認められました（表2）。

表1 2種アブラバチ放飼後のイチゴ株上のチューリップヒゲナガアブラムシの発生推移

区	10月28日	11月4日	11月10日	11月18日	11月25日	12月2日	12月8日
	(1回目放飼前)			(6回目放飼1日後)	(6回目放飼8日後)	(6回目放飼15日後)	(6回目放飼21日後)
処理 ^{a)}	32 ^{b)} (103.2)	27 (42.2)	35 (26.5)	49 (23.9)	132 (28.3)	129 (14.6)	157 (14.5)
無処理	31 (100)	64 (100)	132 (100)	205 (100)	466 (100)	883 (100)	1083 (100)

a)ナケルクロアブラバチおよびコレマンアブラバチ 1頭/m²、4日間隔、6回放飼 ()は密度指数
b)数値は10月28日～11月18日まで60株、11月25日～12月8日まで90株の合計

表2 2種アブラバチ放飼後のイチゴ株上のワタアブラムシの発生推移

区	4月9日	4月16日	4月23日	4月30日	5月7日	5月14日
	(1回目放飼前)			(6回目放飼1日後)	(6回目放飼8日後)	(6回目放飼15日後)
処理 ^{a)}	32 ^{b)} (103.2)	27 (42.2)	35 (26.5)	49 (23.9)	132 (28.3)	129 (14.6)
無処理	31 (100)	64 (100)	132 (100)	205 (100)	466 (100)	883 (100)

a)ナケルクロアブラバチおよびコレマンアブラバチ 0.5頭/m²、4日間隔、6回放飼 ()は密度指数
b)数値は90株の合計

*農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業・実用技術ステージ（25042BC）による研究成果です。

☆ 活用面での留意点

1. 2種アブラバチの混合マミー製剤、バンカー型製剤として農薬登録の申請準備中です。
2. 詳しいことは、栃木県農業試験場（[TEL:028-665-1241](tel:028-665-1241)）へお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）